

2016年度 立命館大学 インド研究派遣プログラム 募集要項



[募集対象]

理工学研究科・情報理工学研究科・生命科学研究科 1～2回生

[応募期間] 2016年3月23日(水)～5月27日(金)17時

[選考結果発表] 5月31日(火)17時に CAMPUS WEB で通知

はじめに

立命館大学理工系 3 学部・3 研究科（理工学部・理工学研究科、情報理工学部・情報理工学研究科、生命科学部・生命科学研究科）は、文部科学省「平成 26 年度 大学の世界展開力強化事業」に採択されました（2014 年度～2018 年度）。

この構想では、異文化・多様性社会であるインドの大学と相互理解を深め、産学国際協働 PBL（Problem/Project Based Learning）による学習を中心に行い、真に国際的視野を持った理工系人材を育成します。

本事業のプログラムの一つとして「インド研究派遣プログラム」を開講します。同分野で研究を進めるインド人教員・学生と共に課題に取り組みます。グローバル化が進む社会・企業で活躍したいという意欲あふれるみなさん、インドで進める研究は、新たなあなたの第一歩になるはずです。ぜひ、積極的に参加してください。

1.プログラムの内容

本プログラムを実施する大学において、PBL の観点で自身の研究分野の調査・研究を行います。PBL を進めるにあたっては、インドが置かれている社会的状況を理解し、科学技術の側面から解決案を探ります。帰国後、研究成果については「成果報告会」において報告していただきます。

実施大学

- ・インド工科大学ハイデラバード校(IIT-H)
- ・ニッテ大学 NMAMIT
- ・シンピオシス国際大学

派遣先の決定

研究指導教員等の協力を得て、派遣先大学・研究室を決定します。海外渡航に伴うビザ取得や航空券の手配は受講生自身が行います。

派遣期間

2016 年 8 月ないし 9 月からの 1 ヶ月（30 日）以内とします。期間については、指導教員と相談の上、派遣先大学の担当教員と調整して、決定してください。

2.募集定員

5 名程度

3.応募資格

- 理工学研究科、情報理工学研究科、生命科学研究科の 1～2 回生であること。
- TOEIC® スト 400 点以上、TOEFL® BT テスト 435 点以上、TOEFL iBT® スト 41 点以上のいずれかの要件を満たすこと。
- 将来、国際的なフィールドで活躍したいという強い動機、意欲を有すること。
- 最後までプログラムをやり遂げる強い意志を有すること。

GRGP における留学先として「実施大学」を希望する場合は必ず、本プログラムを申し込んでください。ただし、必ず参加できるとは限りません。なお、GRGP の学生は、本プログラムへの参加が許可された後も GRGP のプログラムには引き続き参加してください。

「インド IIT-H 産学国際協働 PBL プログラム」に申し込んでいる方も本プログラムに応募できます。ただし、応募者多数になった場合、両プログラムとも許可されることはありません。

4. 費用

- (1) 大学負担費用
- a) 渡航費（日本 - インド往復航空運賃 7 万円/人まで大学負担）
 - b) 現地での宿泊費。大学の寮または近隣のホテルに宿泊します。
- (2) 参加者負担費用（10 万円程度）
- a) 渡航費（一部負担。4 万円程度）
 - b) ビザ取得費
 - c) 海外旅行保険料（海外旅行保険料には必ず加入いただきます）
 - d) インド渡航時の国内交通費（自宅 - 関西空港間など）
 - e) インドでの食費・移動費

5. 単位授与

単位授与を希望する場合は、帰国後に所属学部事務室にて所定の手続きを取ってください。
「海外実習 日誌」の提出は必須です。

認定科目

研究科	科目名
理工学研究科	海外実習
情報理工学研究科	
生命科学研究科	

単位認定基準 60 時間：2 単位、120 時間：4 単位

提出書類 実習報告書、実習日誌

提出期限 実習終了後 30 日以内

6. 応募方法

(1) 応募期間など

- ・ 応募期間：2016 年 3 月 23 日（水）～5 月 27 日（金）17 時
 - ・ 提出方法：窓口持参またはメール送信
 - ・ 提出先：所属学部事務室
- メールアドレス：reinvert@st.ritsumei.ac.jp

事務室窓口持参の場合は、窓口開室時間内に持参してください。

(2) 提出書類（エントリーシート）

下記ホームページよりファイルをダウンロードしてお使いください。学部事務室にも用意しています。

【立命館大学 世界展開力強化事業ホームページ】

「トップページ」「NEWS/アップデート」から「2016 年度インド研究派遣プログラムの募集を開始しました」を参照してください。

[URL] <http://www.ritsumei.ac.jp/reinventindia/>

7. 選考結果発表

5 月 31 日（火）17 時に CAMPUS WEB で通知します。

8. 奨学金

JASSO(日本学生支援機構)の指定する所定の要件(成績基準と家計基準)を満たした学生には、奨学金(6万円)を支給します。JASSO奨学金の支給要件は以下のとおりです。

【JASSO奨学金支給要件】

以下の計算式で求められる2014年度の成績評価係数が2.30以上であること。

[成績評価係数の算出方法例]

下記の表により「成績評価ポイント」に換算し、計算式に当てはめて算出(小数点第3位を四捨五入)

4段階評価(パターン1)	成績評価				
	—	優	良	可	不可
4段階評価(パターン2)	—	A	B	C	F
4段階評価(パターン3)	—	100~80点	79~70点	69~60点	59点以下
5段階評価(パターン4)	100~90点	89~80点	79~70点	69~60点	59点以下
5段階評価(パターン5)	S	A	B	C	F
5段階評価(パターン6)	A	B	C	D	F
成績評価ポイント	3	3	2	1	0

(計算式)

$$\frac{(\text{評価ポイント3の単位数} \times 3) + (\text{評価ポイント2の単位数} \times 2) + (\text{評価ポイント1の単位数} \times 1) + (\text{評価ポイント0の単位数} \times 0)}{\text{総登録単位数}}$$

以下の家計基準を満たしていること。ただし、以下の基準を満たさない場合でも、個別の事情(兄弟が私立大学に在学している等)があれば基準を満たしたものと扱われる場合があるので、理工学部事務室に相談してください。

[大学院生] 本人及び配偶者の収入が486万円未満であること。

派遣先大学の紹介

インド工科大学ハイデラバード校

IIT-H は、インドの理工学系高等教育機関の最高峰であるインド工科大学 (Indian Institute of Technology、IIT) の 16 校の一つ、ハイデラバード校 (IIT-H) です。コースは、生体医工学、バイオテクノロジー、土木工学、化学工学、コンピューター科学工学、電気工学、エンジニアリング工学、物質科学工学、機械工学などがあり、学生数は現在約 1000 名です。

現地研修で訪問する IITH の新キャンパスは、2015 年度に完成したばかりで、最新設備の環境で学び、新築の寮に宿泊します。

また、外務省の調整のもと設置されている「インド工科大学ハイデラバード校支援コンソーシアム」には立命館大学も参加しています。



ニッテ大学 NMAMIT

医学、工学、経営学部等多数のカレッジの一つであり、電子通信工学、コンピューター科学工学、土木工学、電気電子工学、情報科学工学、バイオテクノロジー、機械工学などのコースがあります。

2013 年度から毎年、理工学研究科では、ニッテ大学の大学院生 2 名を受入れて、6 ヶ月間の研究インターンシップを実施しています。

また、今後は学生の派遣・受入れだけでなく、教員交流なども含め本学と積極的に連携を展開していく予定です。



シンビオシス国際大学

法学、経営学、コンピューター学、健康・生物医学、工学等の学部からなる総合大学です。Symbiosis Centre for Information Technology は、コンピューター科学工学、電気工学、エンジニアリング化学、物質科学工学、機械工学などのコースがあります。

情報理工学部では、シンビオシス国際大学と情報技術分野における研究交流を積極的に進めています。

また、2007 年度よりシンビオシス国際大学における「海外 IT 研修プログラム」を実施し、例年、10 名~30 名の学生を派遣しています。5 週間にわたり英語による講義とプロジェクト型のグループワークを行い、学生が能動的学修を進められるプログラムとして実施しています。

また、2012 年度から毎年、シンビオシス国際大学の大学院生を 5 名~8 名ほど本学の特別研究学生として受入れ、3 ヶ月の研修プログラムを実施しています。



2015 年度参加学生の声

理工学研究科環境都市専攻1回生 森定 真健（訪問先：インド工科大学ハイデラバード校）

<研究テーマ> インドハイデラバードにおける環境汚染物質の分析と動態に関する研究

研究室の先生、ドクターの方と英語でディスカッションする貴重な機会を得ることができた。多少ではあるが、英語力を向上することができたとともに自信をつけることができた。しかし、専門用語を駆使してスムーズにコミュニケーションをとるほどのレベルには達していないため、今後の課題、モチベーションとなった。

海外の研究室に入り、自分に近い分野のドクターと一緒に研究することができ、自分の研究を見直すきっかけとなった。特に現地のドクターは十分な基礎知識を持ったうえで、研究活動を考えているため、応用力があり、自ら果敢に研究活動に取り組んでいるという印象を持った。

私の今の研究活動の取り組みを見直してみると、自ら考えて行うということが欠けているため、このような姿勢は見習わなければならないと感じ、今後の大学院での研究活動を改善する良いきっかけとなった。



理工学研究科 機械システム専攻1回生 前沢 英典（訪問先：インド工科大学ハイデラバード校）

<研究テーマ> 高圧ガスジェットミリング法による調和組織制御された純チタン焼結体の力学的特性

この留学では日本のインフラや環境のすばらしさを痛感した。IIT-H の学生は日本の学生よりも意欲とやる気があるように感じた。自分の研究でない研究にも興味津々で、専門外の授業も受けていて私は驚いた。そしてそれらの話や授業で学んだことを自分の研究にも取り入れていて、研究の幅を広げるには意欲ややる気、積極性が大事なのだとすることを学んだ。

過酷な環境下で研究を行っている学生を見て刺激を受けることがたくさんあった。この留学では精神的なものを多く得たと私は考えている。



情報理工学研究科 情報理工学専攻1回生 筒井 薫平（訪問先：シンピオシス国際大学）

<研究テーマ> 創造性を生み出すための初等教育におけるタブレット端末の活用

滞在した寮では自炊が認められていなかったため、3食とも外食だった。100円未満で食べられるものか、1000円を超えた日本と変わらないような値段であるかの両極端であり、中間の値段のものがあまりなかった。これらのことから、インドでの格差社会が垣間見えた。

また、プネは交通ルールが酷かったものの、治安が安定しておえり安心して滞在することができた。エローラ遺跡やアジャンター石窟群の仏教の遺跡では、法隆寺の壁画のオリジナルがあったり、日本でもよく見かける仏像があったりと古くから日本とインドのつながりを感じることができた。